

注目の新設校インタビュー

お話 茨城県立古河地区中等教育学校(仮称)

(総和高等学校を改編)

校長 染谷 恵美子 先生



編集部 よろしくお願ひいたします。茨城県の

「第2次県立高等学校再編整備の前期実施計画」の中で、県西地区に中等教育学校が設置されることになり、総和高校を改編することになったのですが、総和高校が選ばれたのはなぜでしょうか。染谷 地元地域からは、他県高校への市内中学校卒業生の流出を抑えることが期待できる進学校を作り上げてほしいこと、地元医療に携わる医師の養成が期待できる進学校の設置を求める意見が古河市医師会などから出されていること、日野自動車の進出に伴う従業員の子どもたちの教育環境を整備したいことなどが要望されています。古河市内には県立高校が6校ありますが、立地条件や施設面などを総合的に判断して、総和高校の校地への設置に決まったのだと思います。

編集部 中等教育学校は、今までの総和高校とは違うタイプの学校になるということですか。

染谷 はい。別の学校を新たに設置する、という考え方です。ですから、区切りをつける意味でも総和高校は今春を最後に募集を停止し、校名を変更し、来春から新たに中等教育学校として生徒の募集を行うことになるわけです。

編集部 6年間一貫教育で、どのような生徒の育成を目標とされるのでしょうか。

染谷 育てたい生徒像は「Creation 創造」「Challenge 挑戦」「Contribution 貢献」の「3つのC」で表されます。広い視野と柔軟な思考力、豊かな感性を備え、新たなものを創造できる生徒、さまざまな分野への好奇心や探究心にあふれ、自ら進んで真理の追究や課題の解決に挑戦できる生徒、高い目標と強い意志を持ち、地域や日本、国際社会の発展に貢献できる生徒を育成してい

きます。

編集部 教育内容の特色についてお願いします。染谷 本校の教育プログラムは「未来を創造する人間力の育成」として、「Σ(シグマ)ソフィア・プロジェクト」と名づけています。リーダー資質の育成、探究学習、科学教育、国際教育、学力育成がその5本の柱になります。

編集部 リーダーとしての資質の育成では、どのような取り組みを予定していますか。

染谷 特に来春入学する1期生は、クラブ活動や学校行事などの自主的な活動を、自分たちの手で創り上げていきます。もちろん教員はサポートしますが、失敗を恐れずに挑戦するチャンスを数多く作っていきます。2年目以降は異年齢集団が作れますので、学年混成でのボランティア活動などを実施し、特に上級生はリーダーシップを磨いていくこととなります。さらに高学年では企業や団体のトップリーダーの方々にお越しいただき、生徒とのシンポジウムも行なっていきたいと思っています。

編集部 他校でも、各界で活躍されている方の講演会などが行なわれていますが。

染谷 講演を聴くだけでなく、意見などを講演の方に投げかけるなど、積極的な討議を想定しています。ですからシンポジウムなのです。討議を通じて広い視野を生徒たちが獲得できるよう、形式なども工夫していきます。

編集部 探究学習ではどのような取り組みを予定しているのでしょうか。

染谷 総合的な学習の時間で課題研究を行っていきます。まず1・2年生では、グループ別に課題を設定して研究し、成果をまとめて発表します。

探究的な学習スタイルを身につけることから始めていきます。テーマは実験、観察や体験活動など、あまり絞り込まずに幅広く考えています。3～5年生(5年生=高2相当)では、個別の研究テーマを決めて研究を進めます。大学のゼミのようなものをイメージしてください。

編集部 最後は発表ですか。

染谷 5年生では研究論文を作成して発表します。こうして科学的思考力や表現力を身につけていきます。課題の設定では、興味・関心・意欲を高めるだけでなく、自己の生き方を考えさせることも狙いです。

編集部 科学教育についてはいかがですか。

染谷 教室での授業だけでなく、身の回りの科学技術を題材とした探究活動や、大学や研究機関、医療機関と連携した体験活動を行います。こうして生徒たちの科学に対する姿勢や意欲を育て、科学オリンピックや各種のコンテストに積極的にトライしていきます。その結果として、難関大学や医学部への進学を積極的に進めていきます。

編集部 国際教育についてはいかがでしょう。

染谷 日本語と英語による表現活動としてスピーチやディベートに力を入れるほか、在留外国人や留学生との交流も行っています。こうしたときに大切になるのは基本となる英語力ですが、前期課程3年(中3相当)で英検2級の取得をめざします。

編集部 語学研修なども行うのでしょうか。

染谷 国内でのイングリッシュキャンプの他、修学旅行は英語圏のアジア地域を予定しています。また、希望制ですが、これとは別に海外語学研修も計画しています。日本だけでなく日本以外の国の文化や生活習慣などに触れることで、異なる価値観や生き方と出会ってほしいと思います。それは、今の自分を振り返ることにもなり、人間的に成長していく上でとても貴重な体験になります。

編集部 学力育成ではどのような取り組みを予定していますか。

染谷 まず6年間を1・2年生の「深耕期」、3・4年生(4年=高1相当)の「伸長期」、5・6年生の「結実期」に分けます。「深耕期」では本校の生徒と

しての基本的な学習習慣や生活習慣を身につけることや、各教科の基礎学力の定着だけでなく、社会のしくみやさまざまな職業、地域や日本、国際社会の姿などについて学びます。

編集部 授業時間数は増えるのでしょうか。

染谷 前期課程では標準より3時間多い、週32時間授業です。特に数学と英語は毎日授業を行って、高い学力の土台を築いていきます。

編集部 「伸長期」はいかがですか。

染谷 教科の学習では3年生から一部高校内容に入ります。また、教科の学習でも探究的な学習を重視し、自ら進んで課題を見つけ、それを解決していく力を身につけていきます。また、将来に向けて自分を見つめ、適性に応じた進路を考え、未来の自分像を膨らませる中で、学習に対する動機付けをしっかりと根付かせていきます。



【中等教育学校の校舎(現総和高校)】

編集部 「結実期」はいかがでしょう。

染谷 進路希望に合わせて文系と理系に分かれて学習します。研究論文発表や海外修学旅行といった活動と並行して進学指導が本格的に実施されます。その一環として進路希望に合わせた選択授業や、難関大学、医学部への進学をめざした授業、進学特別講座も実施します。

編集部 進路先としては難関大学や医学部を目標とするお考えなのですね。

染谷 難関大学や医学部だけでなく、希望するどんな大学にも入れる学力をつけさせたいと考えています。古河市をはじめとする県西地区は県境にあるため、毎年多くの優秀な中3生が埼玉県や栃木県などの進学校に進んでいます。東京にも通学できますので、中学受験では東京の私立学校をめざす生徒もいます。もともとこの地域に旧制中

学校がなかったことから、このような優秀な生徒の流出が何十年と続いてきました。他県に流れた優秀な生徒は容易には地元に戻ってきません。ですから、この地域で難関大学や医学部に進学する生徒を育てたいという地域の要望に応えることも求められているのです。

編集部 進学先としてはどの大学を想定していますか。

染谷 難関大学は東大や東工大など、医学部は筑波大医学部などを想定しています。最難関ですから、ハイレベルな授業を日々展開します。また、課外活動のひとつとして大学別進学研究会、特に「東大進学研究会」や「医学部研究会」などを実施する予定です。

編集部 どういった取り組みなのでしょう。

染谷 東大生や医師、医学部教授などによる講話、東大ならキャンパス見学、医学部なら病院見学といった意識付けとともに、生徒たちと教員で入試動向、出題傾向などを分析、生徒同士で刺激しあい、励ましあって学習を進め、希望の実現を図るものです。県内トップの進学校で成果を挙げている取り組みですが、本校でも実施します。

編集部 進学結果の数値的な目標はありますか。

染谷 本校は1学年120名ですから、県内トップの進学校と同じ人数というわけにはいきませんが、1期生からコンスタントに難関大学や医学部への複数名現役合格をめざします。

編集部 ハイレベルな授業ということですが、中にはついていけない生徒も出るのではないのでしょうか。

染谷 深耕期や伸長期では、特に数学と英語については1クラスを2分割した少人数指導で、きめ細かくフォローします。補習や特別課外授業なども行い、柔軟に対応します。難関大学や医学部への進学だけでなく、全員が希望する進路を実現できるように、「結実期」は文系・理系をさらに難関国公立大対応文型、国公立大対応文型、医学部・難関国公立大対応理型、国公立大対応理型

に細分化し、難易度に応じた授業とします。

編集部 今度は生活面についてうかがいます。給食を実施するのでしょうか。

染谷 前期課程の3年間は給食です。古河市の協力で、市立中学校と同じメニューを提供していただくことになっています。後期課程(高校段階)は購買を用意する計画ですが、もちろんお弁当でも構いません。

編集部 クラブ活動はいかがですか。

染谷 1年目は生徒120名のスタートとなります。生徒の希望を踏まえて話し合い、部活動の数は少ないながらも充実した活動ができるように配慮していきます。生徒数が増えるに従い、順次対応していく予定です。

編集部 スクールバスについてはどのような計画なのでしょう。

染谷 決定ではありませんが、古河駅から学校までは当然として、境町・坂東市方面、結城市・筑西市方面、下妻市・八千代町方面へも直接学校まで運行するスクールバスを計画中です。

編集部 入学者選抜の方法はどのようになるのでしょうか。

染谷 同じ県立の並木中等教育学校や日立第一高校附属中学校と同時に実施します。内容は適性検査ⅠとⅡ、そして面接で、適性検査は県の統一問題です。合格者は小学校からの報告書も踏まえて総合的に判定して決定します。

編集部 では最後に、受験生・保護者の皆さんにメッセージをお願いします。

染谷 地域でリーダーを育てる学校として、また、この地域の教育水準を上げる担い手となることを期待されて来春開校します。「なぜそうなるのだろう?」「もし…ならどうなったかな?」、こうした疑問を大切に、解決への考え方が自分のできるようになっていく学校です。ぜひ、多くの6年生に挑戦していただきたいと思っています。

編集部 ありがとうございます。

茨城県立古河地区中等教育学校(仮称) 交通案内 JR宇都宮線古河駅からバス女沼仲町 徒歩約10分
○説明会 8/2(木)予定 詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.koga6.com/> 電話 0280-92-4551